

総合診療科での SDH/SDGs を学び理解するためのカリキュラム

1 初めに

現代医療においては、従来の疾患管理を中心とした学問としての医学のみならず、Bio-Psycho-Social model(BPS model)に代表されるような心理社会的背景を考慮した診療を行うと医療が、重要である。一方で、心理社会的背景を考慮する上では、近年 Social Determinant Health(SDH)や Sustainable Development Goals(SDGs)などの概念が提唱されているが、卒前医学教育においてこれらを系統的に学び医療で実践する機会は乏しい。

総合診療科（以下当科）では multimorbidity case、chaotic case を扱うことも多く、患者の心理・社会・生活背景の理解が、問題解決の過程で重要となる場面が多い。また医療においては医療者側と立場が違う患者に対する共感力の涵養が重要である。そこで今回、当科で研修を行う初期研修医もしくは臨床実習学生が、患者の心理社会的背景を理解した診療を行うことの意義を学び日常診療において実践できることを目標に以下のカリキュラムを策定することとした。

2 目的

- 生活環境や労働を背景とした疾病罹患との関係性について理解する
- 地域特性に起因する医療システムの課題について理解し解決策を考える
- 住民が健康かつ豊かに生活できる持続可能な社会のあり方について考える

3 方略

3.1 研修期間(地域生活体験研修)

- 初期研修医：Post Graduated Year(PGY) 1 及び PGY 2 の各 1 週間
 - * PGY 1 については総合診療科研修期間の最終月
 - * PGY 2 については総合診療科研修期間の開始月
- 臨床実習学生：群馬大学学外選択実習学生の実習期間中 2 泊 3 日
 - * 学外選択実習開始前のアンケートで研修希望を確認する

3.2 研修施設

一般社団法人 WASAWASA 関連施設（川場村谷地富士山集落近隣農耕地）
かたしな高原スキー場関連施設
その他今後の状況によって施設追加予定

3.3 研修内容

- 地域生活体験研修前理論学習(BPS model、SDH、SDGs) 各講義形式3回
- 地域生活体験研修(研修施設)
- 地域生活体験研修後まとめ(レポート提出、関係者への口頭発表会)

地域生活体験研修スケジュール案 (初期研修医)

月	火	水	木	金	土	日
施設来訪 ガイダンス	労働体験 生活体験	労働体験 生活体験	労働体験 生活体験	労働体験 まとめ/帰宅	レポート作成 (観光体験)	休日

- * 理論学習(BPS model、SDH、SDGs)については、総合診療科スタッフ(家庭医療専門医)が各領域について、地域生活体験研修前に各1時間程度の講義を実施する

初期研修医 PGY1：Groupe 1は6月、Groupe 2は9月

臨床実習学生：学外選択実習開始1週目に集中講義

<講義担当>

BPS model…総合診療専門研修専攻医 高橋 朋宏

SDH…指導医 宇敷 萌

SDGs…指導医 宇敷 萌

- * 地域生活体験研修中は原則は研修施設・現地での宿泊を基本とする
一般社団法人 WASAWASA 関連施設研修期間…民宿富士見荘
かたしな高原スキー場関連施設研修期間…かたしな高原スキー場従業員宿舎
- * PGY 1は、総合診療科研修3ヶ月間の3ヶ月目に、各研修医が1週間ずつ、一般社団法人 WASAWASA 関連施設で研修を行う
- * PGY 2は、総合診療科研修3ヶ月間の1ヶ月目に、各研修医が1週間ずつ、かたしな高原スキー場関連施設で研修を行う

【一般社団法人 WASAWASA 関連施設研修概要】

PGY 1年目

Groupe 1

7月第1週 農作業(棚田、畑)、富士山集落住民との交流、その他

7月第2週 農作業(棚田、畑)、富士山集落住民との交流、その他

7月第3週 農作業(棚田、畑)、富士山集落住民との交流、その他

Groupe 2

10月第1週 農作業(棚田、畑)、富士山集落住民との交流、その他

10月第2週 農作業（棚田、畑）、富士山集落住民との交流、その他

10月第3週 農作業（棚田、畑）、富士山集落住民との交流、その他

【かたしな高原スキー場労働体験内容概要】

PGY 2年目

Groupe 1

10月第1週 農園作業、接客経験、冬に向けた準備

10月第2週 農園作業、接客経験、冬に向けた準備

10月第3週 農園作業、接客経験、冬に向けた準備

Groupe 2

1月第1週 接客経験、スキー場関連業務経験

1月第2週 接客経験、スキー場関連業務経験

1月第3週 接客経験、スキー場関連業務経験

- * 地域生活体験研修施設における労働体験、生活体験に関しては各施設における日常労働、各地域における日常生活を基本とし、内容に関しては各施設研修責任者と総合診療科研修責任者が相談の上で決定する
- * 一般社団法人 WASAWASA 関連施設研修においては、研修受け入れ担当者（一般社団法人 WASAWASA 代表 黒田様）と研修医との相談で、個々人の関心領域に併せた富士山集落住民と交流が持てる機会を設定する。交流した一人の住民の方のライフストーリーをもとに、研修終了時レポートの「生活と労働を背景とした健康や疾病の関係について」を作成する
- * スキー場関連業務はスキーができればパトロール、スクールスタッフ等。スキーができなければレストラン、レンタル、スクールアシスタント、リフト員等実施
- * 臨床実習学生に関しては、週末金～日の3日間に圧縮したカリキュラムで実施することとし、その体験研修実施時期に実施可能な体験を組み込み行う

地域生活体験研修カリキュラム案（臨床実習学生）

金	土	日
施設来訪	労働体験	レポート作成
ガイダンス	生活体験	観光体験
労働体験	まとめ	
生活体験		

3.4 研修評価

- 研修終了時レポート
＜レポート課題：A4用紙2枚以内(3000文字前後)＞
 - 1) 生活と労働を背景とした健康や疾病の関係について(PGY1研修後)
 - 2) 中山間過疎高齢地域で幸せに生活するための課題と提案(PGY2研修後)
 - SOCIAL EMPATHY INDEX 調査票(研修前理論学習前、PGY1研修後、PGY2研修後)
 - 地域生活体験研修に関するアンケート(PGY1研修後、PGY2研修後)
- * 研修医においては各研修施設における研修終了後に、体験研修関係者を対象とした口頭発表会を実施し、1人あたり10分のプレゼンテーションを行う
- * 体験研修の内容等については学会(日本プライマリ・ケア連合学会、医学教育学会等)での発表を積極的に検討する

4 その他

4.1 経費等

- 体験研修にかかる費用については、利根中央病院からの補助を行う
- 体験研修期間中の研修医の給与については通常勤務と同様に支給することとするが時間外手当については支給しない
- 研修施設に対する謝金等については、利根中央病院の規定に従う
- 宿泊施設利用等の実費発生分に関しては利根中央病院が負担する

4.2 安全対策

- 体験研修中の事故や怪我等に関しては、研修実施責任施設である利根中央病院が各研修者に個別にかかる個人保険の範囲内で責任を負うものとする
- 新型コロナウイルス感染症等の感染症対策として、通常の感染対策を継続し、地域内流行期には体験研修中止も考慮する

5 連絡先等

研修責任者・問い合わせ先：利根中央病院総合診療科 部長 鈴木 諭
群馬県沼田市沼須町 910-1

Tel: 0278-22-4321 Email: tch-s.suzuki@tonehoken.or.jp

受け入れ施設責任者：一般社団法人 WASWASA 代表 黒田まり子

Tel:0278-52-2285 Email: wasawasa.info@gmail.com

大都開発株式会社(かたしな高原スキー場) 社長 澤生道

Tel:0278-58-2161 Email: inquiry@katashinakogen.co.jp

— 里山暮らし研究所 —

“WASAWASA”

はじめました

名前の由来

「自然あふれる里山の環境と暮らす人々の創造力を大切に、
生き生きと持続可能な里山暮らしを実現したい！」という想いを込めて名付けました



【わさわさ】広辞苑より

- ・軽快で生き生きしているさま
- ・ハキハキと淀みのないさま
- ・明るく晴れやかなさま
- ・陽気でウキウキとしているさま
- ・草や木の葉が風などで揺れるさま
- ・人の出入りが多い、落ち着かないさま



その1



その2



その3



その4



 一般社団法人
WASAWASA

TEL/0278-52-2285
Mail/wasawasa.info@gmail.com
(代表) 黒田・丸山

事務所
378-0101
群馬県利根郡川場村大字谷地 1053-2

「自然と共にする時間を、より多くの人に届ける」

日本の自然保護発祥の地である尾瀬国立公園の麓、
尾瀬谷に位置するかたしな高原は「持続可能な開発目標」(SDGs)に賛同し、
自然と共に暮らしていく為の取り組みを進めてまいります。



かたしな高原は、地域の方々と連携し、自然体験、自然をフィールドにした遊び、そして自然に寄り添った人の営みを感じることができるツアーを毎月企画しています。

子供の笑顔がはじけ、チャレンジをうながし、家族の新たな一面が垣間見える。と同時に、自然の大切さ楽しさを感じていただくことで環境問題がもっと身近になるように活動しています。

【地域の協力団体】

iikarakan, Bluebird Canoe, High Five Mountain Works, VARIVAS, FIELD EARTH 等

かたしな高原は、2012年より村内にある休耕地を再活用し、約1ヘクタールの農地を自社で運営しています。年間20種類以上の野菜と果物を栽培し、収穫したものは宿泊施設やレストランで使用しています。

また、グリーンシーズンには滞在されるゲストに無料で収穫体験を提供することで、食育に関心をもっていただく機会を提供しています。



かたしな高原は、各団体と連携を取り環境問題に取り組んでいます。

「気候危機から冬を守る」をミッションに掲げた「Protect Our Winters Japan」の活動を支援しています。スタッフ対し気候変動講習を実施し、ユニフォームにPOWのロゴを配することや、その他の取り組みを通じて、来場者への関心を高める活動を行っています。

「ビジネスでの利益と損失は地球環境の健康状態にも直接関連する」ことを理解し、産業が与える社会的/環境的影響を懸念する企業同盟の「1% for the planet」に2014年から加盟し、当社が運営する会員システムの入会費用の1%を地域で活躍する草の根環境保護団体に寄付しています。



かたしな高原は、2021年から使用電力を再生可能エネルギーに段階的に切り替えていきます。

第一段階として、2021年5月からかたしな高原スキー場、かたしな高原ホテル、チャイルドロッジの全使用電力のうち30%を再生可能エネルギーに切り替えてまいります。



Address: 群馬県利根郡片品村越本2990 Phone: 0278-58-2161 Mail: inquiry@katashinakogen.co.jp

<https://www.instagram.com/katashinakogen/>

<https://www.facebook.com/katashinakogen/>

<https://katashinakogen.co.jp/>



かたしな高原
Feeling Nature Around, KATASHINA KOGEN